歯科技工士はモノづくり系医療人

㈲デンタルセラミックアート
鎌田　英樹

2014年2月CAD/CAMによるハイブリッドクラウンが保険導入と言う事が報道されました。2014年の歯科学会に併催されるデンタルショーはCAD/CAM一色の1年でした。

私はWindows95発売以来、子供はゲーム機、自分はパソコン、デジカメその他Digital機器が無くては成らない歯科技工士になり20年になりました。

現在歯科技工士は50歳以上が約50%になり、若手の離職者が増え歯科技工学校の入学者も減り歯科技工士の激減は避けられない事態が想像されます。その歯科技工士不足の補填にCAD/CAMをと言う考えも有りますが、欧米の真似、歯科医療を歯科工業とするの、と言う思いもあり有床義歯は如何するのか、今のCAD/CAMシステムはまだまだ人の技には程遠いと思います。ただ、大型のインプラントブリッジの適合は、従来の鋳造法、蝋着法より正確に出来る事は間違え有りませんが、その正確な原型は歯科技工士が作らなければなりません。

この度、旭歯技近藤会長に認定講師登録後初の講師依頼をいただき身の引き締まる思いです。

歯科技工歴約半世紀、モリソンクラウンからジニコニアクラウン、自身の経験を基に審美感、咬合、適合等、クオリティアップ及びスキルアップ等少しでも伝える事が出来る事を心から願って。

☆略歴☆

1969年　旭川歯科学院(現在、旭川歯科学院専門学校)卒業
　　小林歯科医院勤務
1978年　株式会社モダンデンタルラボラトリー入社
1978年　有限会社デンタルセラミックアート開設
1980年～2004年　旭川歯科学院専門学校技工科講師
1980年～2013年　札幌吉田学園医療専門学校技工学科講師
2014年　日技認定講師

高齢化に伴う有床義歯臨床の展開とは？

前北海道大学歯科センター診療教授 野谷 健治

我が国に高齢化は急速に進行しており、今や４人に１人とも３人に１人との時代になった．高齢化に伴って歯科医療界もこれまで経験していなかった大きな疾病構造の変化に直面しており、正直なところ辟易しているように思える。その代表例に高齢者の有病者や要介護患者へ補綴、特に有床義治療の問題があげられる。歯科医師が在宅や施設に赴いて診療することは、単に補綴治療の完成度を高めることを目的とするはずもなく、かたや過酷な医療現場ゆえ不十分な治療内容も致し方ないと達観するわけにもいかない。正しくは高齢患者の状態や環境、希望などを包括的に診断し個ごにマッチした対応が必要である。そのためには義歯に関する技工操作もそれぞれの処置方針に合致しなくてはならず、技工士には多様化が要求される。また、これまで 30 年来行われてきたインプラントに関しては、現在でインプラント治療を行う医療機関は 21.5 %であり、インプラント装着者は国民の 10.2 % と報告されている。しかしながらこうした中で、近年インプラント治療のトラブルやクレームが確実に増加しているのも現実であり、インプラント修復のあり方が再評価される時期にきているとしても過言でない。

今後患者の高齢化を考慮すると、インプラントのトラブル処置や処置後の修復治療として有床義歯治療のケースが拡大することが間違いないだろうが、これらの治療などの信頼できるガイドラインも存在しているわけではない。

今回は、こうした種々な高齢化に伴う有床義歯について考察し、それに伴う歯科技工の実際について提示してみたい。